



障がい者サッカーを
もっと
みんなのものへ



はじめに

障がい者サッカーとは、過去、JFAとしてはじめから組織的に取り組んできたわけでは
ありませんでした。障がい者スポーツが、一般のスポーツと異なり、医療の面からとら
えられ厚生労働省管轄であったこと、またJFAとして組織同士の関係の基盤ができてい
なかったこと等の要因で、向き合いにくい状況がありました。

そのような中で、スポーツ基本法に障がい者のスポーツ参加が言及されたこと、スポー
ツ庁の設置が決まり、文部科学省が障がい者スポーツも管轄するようになったこと、そ
して、2020東京オリンピック・パラリンピック開催が決定し、日本でパラリンピックが
開催されたこと等、様々な社会的背景の変化がありました。

また、海外ではすでに、サッカー協会が障がい者サッカーに取り組む先進的な事例が存
在していました。

一方、JFAが直接関わることはありませんでしたが、これまでも国内で障がい者サッカー
は生まれ、全国で様々な連携や活動が行われていました。

JFAは2014年5月に「JFAグラスルーツ宣言」を発表し、「サッカーをもっとみんなのものへ」、年齢、性別、障がい、人種などに関わりなく、誰もが、いつでも、どこでも、身近でサッカーにアクセスできる環境の整備に取り組むことを明言しました。

サッカーの持つすばらしさをもっともっと多
くの人と分かち合い、はぐくみたい。

2016年4月1日、障がい者サッカー競技の
7団体を統括する組織、一般社団法人日本
障がい者サッカー連盟(JIFF)を設立しまし
た。7つの団体がより良く連携すること、そ
してJFAの持つ資源、なによりもサッカー
ファミリーにつなげ、発展を推進する力とし
たいと考えています。

サッカーファミリーの大切な仲間である審判の
皆さん、ぜひ審判を入口として、障がい者サッ
カーに触れてください。広くサッカーを通じて、
多方面から障がい者サッカーと連携し、サッ
カーファミリー全体で、サッカーをもっとも
とみんなのものに、豊かにしていきましょう！

はじめに 2

01 アンステイ
サッカー 4
(精神障がい)

02 CP
サッカー 6
(脳性まひ)

03 ソーシャル
フットボール 8
(精神障がい)

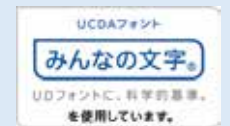
04 知的障がい者
サッカー 10

05 電動車椅子
サッカー 12

06 スラインド
サッカー® 14
(視覚障がい)

07 ろう者(デフ)
サッカー 18
(聴覚障がい)

日本障がい者サッカー連盟 … 20



01 アンフティサッカー (切断障がい)

上肢または下肢の切断障がいを持った人々のサッカーです。



アンフティサッカー (amputee soccer = 切断者サッカー) とは、主に上肢または下肢の切断障がいを持った人々により行われるサッカーです。

従来のような障がい者スポーツに必要とされた専用器具を必要とせず、日常生活やリハビリ医療目的で使用しているクラッチ (主にロフストランドクラッチ) で競技を行うため、足や手に障がいを持つ人々にとっては最も気楽に楽しめるサッカーです。

ルール

【人数】7人 (うち1人はゴールキーパー)

【試合時間】25分 - 10分 - 25分

【ピッチサイズ】国際基準 縦60m×横40m

【ゴールサイズ】5.0m×2.15m (少年サッカー用ゴール)

【その他】

● フィールドプレイヤーは移動のためにクラッチを使用するが、このクラッチをボール操作に使用することはできない。故意に触れた場合はハンドとなる。

● フィールドプレイヤーは転倒した状態でボールを蹴ることはできない。

● ゴールエリアなし、オフサイドなし、ゴールキーパー以外は自由交代

● スローインではなくキックインとなる。

● ゴールキーパーはペナルティエリアから出ることができない。



クラッチ

対象者

フィールドプレイヤーは下肢切断者もしくは下肢に障害のある者

ゴールキーパーは上肢切断者もしくは上肢に障害のある者

【クラス分け】なし

国内大会

日本アンフティサッカー選手権大会
レオピン杯 copa amputee



アンフティサッカーの審判

選手達にとってこのクラッチは腕と同じ扱い。プレー中このクラッチで故意にボールに触れると「ハンド」となります。

留意点

クラッチ (杖) でボールを扱うと反則となりますが、当たっただけでは反則としないため、不必要に幅を出していないか、クラッチの幅を広げて相手競技者を抑えていないかを判断します。また、切断している足でボールを扱ったり、地面に着いてプレーをすると反則となるため、切断側の足を不正に用いていないかを見ます。

大会での審判条件

JFA 審判資格4級以上の方 (できれば3級以上で事前にJFA 審判講習会を受講)

独自審判講習会

策定中 (JFA 所属審判員4名には暫定的に付与) 審判制度を策定する中で2020年1月に第1回審判講習会を関東地域を対象に実施

大会時の事前審判研修の有無

■大会前研修: あり

① チーム練習に参加し競技観察 (参加可能者のみ)

② 競技規則及び競技規則説明資料配布

■当日研修: なし

■その他の対応: 大会時は第四の審判から割当する。

大会等の審判状況

- ・協会所属審判員及びJFA 審判ライセンス保有者で競技に興味を持つ方 (現状十数名程度) に依頼している状況
- ・大阪での全国大会は三重県・大阪府サッカー協会に派遣依頼

半根 浩次さんに聞きました!

アンフティサッカーの審判に取り組むようになったきっかけは?

東日本大震災の関係で知り合った人にアンフティサッカーチームの関係者がいて、私がサッカーの審判をやっていたことから手伝ってほしいと頼まれ、アンフティサッカーの審判活動を開始しました。アンフティサッカーの審判活動を始めるにあたり、アンフティサッカーの体験を行い、また選手と話をしたことで、手足を失ったことのできなくなったサッカーをもう一度できるようになった喜びを手助けできればと思って取り組むようになりました。

審判を通して感じるアンフティサッカーの魅力について一言!

アンフティサッカーは通常のサッカーの競技規則とほぼ同じであり、サッカーを知っている人ならアンフティサッカーの競技規則を知らなくてもわかること、また、手足を失ったハンディがありながら、激しく楽しそうにサッカーを行っているところが、魅力だと考えています。



特定非営利活動法人 日本アンフティサッカー協会

〒105-0023 東京都港区芝浦1-2-1シーバンスN館 兼松株式会社19階

Eメール support@j-afa.jp 公式WEBサイト <http://j-afa.jp>

公式Facebook <https://www.facebook.com/JapanAmputeeFootball>

公式Twitter <https://twitter.com/jamputees>

公式Instagram <https://www.instagram.com/jamputees/>

YouTube公式チャンネル <https://www.youtube.com/channel/UCBHz0qKvXvQw4sby9R4hFVw>

02 CPサッカー (脳性まひ)

比較的軽度の脳性麻痺選手のために考案された7人制サッカーです。



CPサッカー(脳性まひ者7人制サッカー)は、比較的軽度の脳性まひ選手がプレーできるように考案された7人制サッカーで、立った状態で行う脳性まひスポーツの中では唯一の団体競技です。フィールドが11人制サッカーより小さく、オフサイドがない、片手で下から投げるスローインが認められていること以外は、11人制サッカーとほぼ同じルールで行われます。プレーヤーの障がいは人それぞれのため、お互いの障がいを理解したプレーが求められ、チームワークがとても重要なスポーツです。

ルール

- 【人数】 7人
- 【試合時間】 60分(30分ハーフ)
インターバル 15分
- 【ピッチサイズ】 70m × 50m
- 【その他】 以下を除いては11人制サッカーと同じルール
 - オフサイドなし
 - 両手で上からのスローインができない人のために、片手で下からのスローインを認めています。
 - 女性の参加は、一部の国内大会、普及大会では認められています。
 - 交代は最大3回、最大5名まで
 - 再スタートのとき、対戦相手のチームの選手は、最低7mはボールから離れる。

対象者

脳性まひ、脳卒中、脳外傷など、何らかの原因による脳の損傷によって運動機能障がいがある者(両麻痺、片麻痺、四肢麻痺)で、自力で歩く、走ることができる者(杖の使用は不可)

【クラス分け】 競技を公平に行うために、プレーヤーは障がいのタイプや程度により、FT1、FT2、FT3の3つのクラスに区分され、試合中ピッチ内7人の中で、必ずFT1が1人以上、FT3が1人以内の競技者で構成するルールとなります。

国内大会

全日本選手権大会



CPサッカーの審判

基本的にサッカーとルールは変わりませんが、いくつか特別なルールがあります。

留意点

CPサッカーは、手足に麻痺がある選手達によって、激しいプレーが展開されます。障がい特性により、正当なボディークontactの結果であっても、コンタクト時の強度によって意図しない転倒につながる場面においては、競技者が十分な受け身が取れない可能性があり、重大なけがにつながる可能性があることへの注意が必要。どのような接触があったのか、どのような転倒の仕方であったのか、結果の重大性を考慮したレフェリングを求められます。

大会での審判条件

JFA 審判資格3級以上(特に基準を作っていないが依頼している方は3級以上)

独自審判講習会

独自制度なし

大会時の事前審判研修の有無

■ 大会前研修：なし ■ 当日研修：あり
→内容：ルールの確認、事例の共有

大会等の審判状況

- ・全国大会レベルでは開催地の都道府県サッカー協会に派遣協力依頼
- ・練習試合等では、登録チームの有資格者、協会関係者、その知人等へ依頼

梅本 雅史さんに聞きました!

CPサッカーの審判に取り組むようになったきっかけは?

私がこの競技の審判に取り組むようになったきっかけは、脳性まひ者7人制サッカー(CPサッカー)全国大会が、毎年、私の地元の岐阜市、長良川球技メドウで開催されているご縁で、ここ10数年、審判員として大会に参加させていただいています。

審判を通して感じるCPサッカーの魅力について一言!

参加当初は、審判員として脳性まひに対する知識もなく、判定に戸惑う場面もありましたが、回を重ねるごとに、選手の皆さんが、サッカーに対する理解度が高く、技術・スピードもあり、そして何よりも障がいをものともせず、情熱をもってサッカーを楽しんでおられることがよくわかりました。ただし、脳性まひの特性から、減速が間に合わず、故意ではない接触が生じることが少なくありません。審判団としては、選手の皆さんがケガで大会を棒に振るようなことがないように、細心の注意を払い、大会運営をサポートしたいと考えています。



一般社団法人 日本CPサッカー協会

〒113-8311 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス 一般社団法人日本障がい者サッカー連盟内
Eメール info@jcpfa.jp 公式WEBサイト <https://jcpfa.jp>
公式Facebook <https://www.facebook.com/jcpfa/>
公式ツイッター https://twitter.com/JCPFA_cp_soccer

03 ソーシャル フットボール(精神障がい)

精神疾患・精神障がいのある人を対象としたサッカーです。



©JSFA

「ソーシャルフットボール」の名称は、イタリアで行われているcalciosociale(英訳socialfootball)に由来します。年齢・性別・人種・貧困・家庭環境・障がいなど、あらゆる違いを超えて社会連帯を目指したフットボールムーブメントです。2011年に日本の精神障がい者フットサルチームが初の海外遠征をした際にcalciosocialeに触れ、そ

の理念に敬意を表して協会名としました。フットボールを通して、人との信頼関係を築き、自信を培い、夢や希望を実現する力を獲得できると考えます。精神障がいのフットボールを推進して行くことでそれらを実現するため、日本ソーシャルフットボール協会を設立しました。現在はルールを一部修正したフットサルとして、各地で普及が進んでいます。

ルール

基本的には国際サッカー連盟の競技規則に準拠するが以下の特別ルールを採用している。

- 競技形態はフットサル
- 女子選手を含む場合に限り、最大6人がコートに立つことができる。
- 女子が2人以上でも、最大6人で試合を行う。
- 試合時間、ピッチの広さは大会ごとに規定

対象者

全国大会参加資格は以下の通り。

- 1) 以下の要件全てを満たし、スポーツマンシップに則って大会に参加できる者
- 2) 精神疾患/精神障がいのため医療機関で継続的に治療を受けている者
- 3) WHOの国際診断基準「ICD-10精神および行動の障害」のうち、F2またはF3に該当する者を中心とするが、他の精神疾患/精神障がいも妨げない

- 4) 毎年4月1日現在13歳以上の精神障がい者で以下A~ウのいずれかを提示できる者
 - A) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条の規定により、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者
 - イ) 障害者自立支援法の自立支援医療制度を利用している者
 - ウ) 精神科を継続的に受診しており、主治医より通院証明書の発行が得られる者
- 障がいの程度によるクラス分けはない。

国内大会

- 全国大会
- 地域選抜大会



ソーシャルフットボールの審判

基本的にサッカーとルールは変わりません。

留意点

フットサル競技では、基本的な競技上のルールは同じで、競技者が使用する用具も違いはありません。だからこそ、想定していないアクシデントが起きたとき、冷静に、適切なタイミングでプレーを停止させ、普段どおりのコミュニケーションで選手に対応することを心がけます。対応できない状況になれば、速やかにチーム関係者および運営の皆様から助言(協力)を頂きながら対処します。

大会での審判条件

JFA 審判資格4級以上

独自審判講習会

独自制度なし

大会時の事前審判研修の有無

- 大会前研修: なし
 - 当日研修: あり
- 内容: 公式大会に関しては通常通りに(障がい者だから甘くしないよう)。
- その他の対応: 特別ルールのガイダンス

大会等の審判状況

- ・ 全国大会レベルでは開催地の都道府県サッカー協会に派遣協力依頼。
- ・ 地域主催の大会では、都道府県サッカー協会への依頼を推奨しているが、都道府県サッカー協会との連携がない地域では、審判資格のない方が行っている場合もある。

森 誠二さんに聞きました!

ソーシャルフットボールの審判に取り組むようになったきっかけは?

2019年度より徳島県のフットサル審判員派遣を担当していることもあり、四国で行われているソーシャルフットボールリーグへの審判派遣依頼が私に入ってくるようになったのが最初のきっかけです。自身が審判員を担当する、しないに関わらず審判員を割り当てする責任者としてソーシャルフットボール(フットサル)に関わるようになり、また審判員としても担当するようになりました。

審判を通して感じるソーシャルフットボールの魅力について一言!

私は大人から小学生の子供までの様々なカテゴリで、サッカー・フットサルの審判員として関わっています。それぞれのカテゴリでの競技の強度や技術レベルは大きく違いを感じますが、ソーシャルフットボール競技においても他のカテゴリと同様だと思っており、さほど違いを感じることはありません。選手の皆さんは、普段のトレーニングや練習の成果をピッチ上で表現しようと試合に挑み、審判員の判定に対してもしっかりと受け入れて頂いていると感じており、選手と審判員が協力して試合をつくるのができるのが魅力的なところ。ソーシャルフットボールの競技(事業)において、選手、運営に関わるスタッフの方を含め会場の雰囲気は和やかに感じます。



特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会

〒113-8311 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス一般社団法人日本障がい者サッカー連盟内

Eメール info@jsfa-official.jp 公式WEBサイト <https://jsfa-official.jp>

公式Facebook <https://ja-jp.facebook.com/jsfakokusai2016/>

公式Twitter https://twitter.com/sf_2016japan

公式Instagram <https://www.instagram.com/jsfa.2013/>

04 知的障がい者 サッカー

知的障がい者がプレーするサッカーです。



日本国内においては約6000名のプレイヤーがおり、それぞれの力量により楽しんでます。
ルールは皆さんがご存知のFIFAサッカールールと全く同じですが、発達障がいの程度により試合時間が30分ハーフになったりします。国際試合などは45分ハーフで戦います。

知的障がい者は「ひたむき」なサッカーをします。いわゆる汚いプレーがほとんどなく、心洗われる爽やかさがあるサッカーです。ぜひ一度ご覧になってみてください。

ルール

【人数】11人

【試合時間】国際試合は45分ハーフ

【ピッチサイズ】一般的なサイズと同じ

【その他】競技そのものは皆さんが楽しんでいるサッカーと何ら変わりません。コミュニケーションや戦術理解、判断力などの指導に工夫が必要です。

対象者

知的障がい者

【クラス分け】なし

国内大会

全日本選手権大会

高校生年代の選手権

特徴

全国に特別支援学校・学級網が発達していること、サッカーの面では国体の後に開催される全国障害者スポーツ大会の競技種目となっていることから、全国に広く発達している競技です。国体を契機に取り組みが開始する都道府県も少なくありません。



特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟

〒179-0072 東京都練馬区光が丘2-7-3 Eメール office@jffid.com

公式WEBサイト <https://jffid.com> 公式Facebook <https://www.facebook.com/jffid>

公式ツイッター https://twitter.com/jffid_official

Youtube 公式チャンネル <https://www.youtube.com/channel/UC8PduiGH3BJl6krDTE-wb3A>



知的障がい者サッカーの審判

基本的にサッカーとルールは変わりません。選手とのコミュニケーションを、簡潔に、わかりやすく、丁寧にとりましょう。

留意点

年齢ではなく障がいの程度をみてもらいます。障がいの程度が軽度の1部の試合を担当してもらう審判員には、「いつも担当するサッカーと何ら変わりません」、障がいの程度が中度の2、3部の試合を担当する審判員には、「起こった事象に対して的確に競技規則を施行するように」と説明しています。

大会での審判条件

基本的には、JFA 審判資格3級以上
全国・地域大会については、JFA 審判資格2級以上

独自審判講習会

独自制度なし。ただし、都道府県サッカー協会審判委員会と連携している。

大会時の事前審判研修の有無

■ 大会前研修：なし

■ 当日研修：あり

→ 内容：知的障がい者サッカーの実態の説明や担当する試合の前の試合を観戦研修にあてている。

■ その他の対応：事前に知的障がいの説明プリント配布及びマッチコーディネーションミーティングのときに出場選手の障がい及び対応必要選手の確認をしている。

大会時の審判状況

- ・全国大会レベルでは開催地の都道府県サッカー協会に派遣協力依頼
- ・その他は、各地域や都道府県サッカー協会に派遣依頼を行っている。
- ・審判資格は、3級から1級の審判員を依頼している。

金田 康秀さんに聞きました!

知的障がい者サッカーの審判に取り組むようになったきっかけは?

知的障害特別支援学校に勤めるようになり、知的障がい者サッカーがあることを知りました。2級のアクティブ審判員として活動していることもあり、知的障がい者サッカーの大会運営に審判として携わるようになりました。

審判を通して感じる知的障がい者サッカーの魅力について一言!

知的障がい者サッカーの競技規則は、健常者サッカーの競技規則と同じ「Laws of the Game」なので、いつもの審判活動と施行することは、何も変わりません。審判活動を通して感じるのは、知的障がい者サッカーはものすごく純粋なサッカーなことが多いです。障がいの特性上、一度に複数のことを行うのが難しい場合が多いので、選手達はひとつのプレーに全力を注ぎます。それ故に、健常者のサッカーでは起こりにくい事象が起きることが多々あります。なので、競技規則の理解と適切に施行する力が求められ、審判員としてとても勉強になります。

05 電動車椅子 サッカー

電動車椅子の前にフットガードを取り付けて行うサッカーです。



©JPFA

電動車椅子サッカーとは、電動車椅子の前にフットガードを取り付けて行うサッカーです。自立した歩行ができないなど比較的重度の障がいを持った選手が多く、ジョイスティック型のコントローラーを手や顎などで操りプレーします。性別による区分はなく、男女混合のチームで行います。国際的な呼称は「Powerchair Football」となっており、スピードは時速10km以下と定められています。直径33cmのボールを使用し、繊細な操作で繰り広げられるパスやドリブル、回転シュートなど華麗かつ迫力あるプレーが魅力です。

ルール

【人数】1チーム4人(男女混合)

【試合時間】20分ハーフ(ハーフタイム10分間)

【ピッチサイズ】14～18m×25～30m

(主にバスケットボールコートを使用)

【ボール】直径13インチ(33cm)

【電動車椅子】最高速度10km/h以下

(※国内は最高速度6km/h以下)

【その他】サッカーと大きく異なるルールは「3in(ゴールエリアにディフェンスが3人以上入ってはいけない)」と「2on1(ボールに対して半径3m以内に各チーム1人しかプレーに関与してはいけない)」の2点があります。

対象者

電動車椅子を操作できる方は、どなたでもプレーできます。

※公式試合に出場するには、要障害者手帳(日本国内のみ)

【クラス分け】主に姿勢保持や視野確保、運転技能等を判断基準とし、国際大会のみPF1と

PF2に区分される(「FIPFA Classification Rulebook」による)。

PF1: パフォーマンス全体に影響する相当重度な身体的障がいを持つ選手

PF2: パフォーマンス全体に影響する身体障がいは軽度から中程度ながら、適格基準を最低限満たしている選手

※ 試合中一度にコート上でプレーできるPF2選手は最大2名まで

国内大会

パワーチェアフットボールチャンピオンシップジャパン

日本電動車椅子サッカー選手権大会



電動車椅子サッカーの審判

サッカーと大きく異なる二つのルール(2on1、3in)があります。

留意点

重度の障がいがある選手が多く、常に命に関わる危険性があり、4名の審判が協力し、プレーだけでなく障がいの特性やマシンのトラブルに最大限の配慮や集中力が必要です。タッチライン30mを走る瞬発力と、40分間ボールを予測しながら走り切る体力が必要です。

大会での審判条件

全国大会ではJPFA 審判資格B級以上

独自審判講習会

- 頻度: 年に1～2回程度
- 実施地域: 都道府県単位
- 1回の受講者数: 10人程度

大会時の事前審判研修の有無

- 大会前研修: あり(全国大会前)
→内容: 競技規則の共通理解やコミュニケーションの取り方等
- 当日研修: あり
→内容: 事後の振り返り(評価と課題等の整理)

大会等の審判状況

- ・日本電動車椅子サッカー協会の審判ライセンス保有者のみで対応している。
- ・登録者数に地域差があり、他地域から応援が必要な場合もある。
- ・今後、JFA 審判員の方との相互研修等を計画したい。また、飛び級制度の新設を検討し、交流等も積極的に行っていきたい。

奥本 賢さんに聞きました!

電動車椅子サッカーの審判に取り組むようになったきっかけは?

教員として採用され、初任校で肢体不自由特別支援学校に赴任した際、時を同じくして大学教授が中心となり、その赴任校が母体となって愛媛に電動車椅子のサッカーチームが結成されました。チームコーチを務めていましたが、「正しいジャッジが愛媛のチーム、四国のチームを強くする」と考え、選手達の後押しもあって、1999年に名古屋にて公認審判の免許取得をしました。

審判を通して感じる電動車椅子サッカーの魅力について一言!

電動車椅子サッカーの選手は、自立した歩行ができないなど、いわゆる重度の障がいのある選手が多いです。その選手達が、我々の常識をはるかに超えたスピードとテクニックで電動車椅子を巧みに操作し、命懸けで相手ゴールを目指している。そんな選手達のプレーをわくわくしながらピッチの一番近くで体感し、サポートできるのが審判です。我々の正しいジャッジが、必ずや日本代表を強くし、いずれはW杯で優勝をしてくれると思っています。また、いずれはパラリンピックの正式種目に採用され、その舞台で審判をしたいという夢を自分自身が追い続けているのも魅力の一つです。



一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会

〒113-8311 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス一般社団法人日本障がい者サッカー連盟内
Eメール contact@jewfa.jp 公式WEBサイト <https://www.web-jpfa.jp/>
公式Facebook <https://www.facebook.com/pages/Japan-Powerchair-Football-Association/425150080990174?ref=nl> 公式Twitter https://twitter.com/jpfa_official

公式YouTubeチャンネル https://www.youtube.com/channel/UCg8QfVfSooOeZCKk20o_CTg

応援ツイッター http://twitter.com/#!/JPFA_P_football

Facebook(電動車椅子サッカー応援ページ) <http://www.facebook.com/JPFA2011>

Youtube(電動車椅子サッカー応援チャンネル) <http://www.youtube.com/user/JPFA2011?feature=mhee>

06 フラインドサッカー® (視覚障がい)

B1クラス(全盲)とB2/3クラス(ロービジョン)があります。

フラインドサッカー(全盲クラス：B1)



ブラインドサッカーは、アイマスクをつけてボールの音と声のコミュニケーションで行なう5人制サッカーです。情報の8割を得ているという視覚を閉じた状態でプレーします。ピッチはフットサルコートと同じ大きさで、両サイドライン上に高さ1mほどのフェンスが並びます。4名のフィールドプレイヤー(FP)、ゴールキーパー(GK)、監督、ガイド(案内役)の7名で行い、転がると音が出る特別なボールの使用、ガイドがゴールの後ろにいて位置を伝える、ボールを持った相手に向かって行く時に「ボイ！」と声を出す等、ルールが工夫されています。

ルール

[人数] 5名(FP4名、GK1名)
スタッフ 2名(監督1名、ガイド1名)
[試合時間] 15分ハーフ(プレイングタイム)
[ピッチサイズ] 38~42m×20m

対象者

FPは全盲(国内大会では弱視者、晴眼者も可)
GKは弱視者または晴眼者

【その他】

目の見える人の協力

- GKは見える人(晴眼者または弱視者)、FP4人はアイマスクをした状態で行います。
- ゴールの後ろにガイド(案内役)がいて、ゴールの位置(距離、角度)などを伝えます。
- 「8、45、シュート！」と言っていたら、それは(距離)8m、(角度)45度、(今のタイミングで)シュート!の意味です。

音の出るボール

- ボールは転がすと「シャカシャカ」と音が出る特殊な構造で、ボールの音とまわりの声を頼りにしながらゴールを目指します。
- サイドラインには腰の高さのサイドフェンスがあります。
- 「ボイ(Voy)」スペイン語で「行く」
- ディフェンスは、ボールを取りに行く時自分の位置を知らせるための「ボイ！」という声を出さなければいけません。



国内大会

日本選手権・クラブチーム選手権



フラインドサッカー(全盲クラス：B1)の審判

サッカーの審判と同様に、適切なポジショニングや的確な判定を心がけゲームをコントロールすることが大事です。また、選手は見えていないので、起きた現象に対して会話による説明や、音によって位置を伝えるなどの工夫が必要です。

留意点

選手達はアイマスクをつけ見えない状況でプレーするため、ボールの音や会話によるコミュニケーションが必要となります。

大会での審判条件

JBFA 審判資格者(割り当ては過去のブラインドサッカー審判経験から判断)

独自審判講習会

- 頻度：6回(2021年4月~2022年3月)
- 実施地域：東京、神奈川、広島、静岡、千葉
- 実施方法：オンライン講習と実地講習の併用
- 1回の受講者数：2~20人

大会時の事前審判研修の有無

- 大会前研修：あり
→内容：アクティブレフリー講習会や審判資格講習会を年数回開催し、最近の事象を参考に、プラクティカルトレーニング、ビデオ研修、競技規則テストを実施
- 当日研修：あり
→内容：審判インストラクターを派遣し、試合前の打ち合わせ、試合後のフィードバック、試合後2日以内にアセスメントレポートの送付

大会等の審判状況

- ・日本ブラインドサッカー協会の審判ライセンス保有者で対応
- ・人数としては大きくは不足していないが、資格保有者が首都圏在住者に集中しているため、首都圏以外在住者の審判員増加を目指しています。

ト部 靖さんに聞きました!

ブラインドサッカーの審判に取り組むようになったきっかけは?

2013年東京国体の際に現在日本ブラインドサッカー協会で審判部長をされている方から声を掛けてもらい、2014年のブラサカ世界選手権(東京)を観戦しました。自分の目で実際に競技を確かめて、自分にもできると感じ、翌年の2015年に審判資格を取得。日本ブラインドサッカー協会の審判員として活動を開始しました。実は、私の家内も身体障がいの認定を受けており、皆様の介護が必要です。その恩返しも兼ねて、この競技のレフェリーを始めました。

審判を通して感じるブラインドサッカーの魅力について一言!

障がい者と健常者が混ざり合い、チーム全員が一体となって得点を取り勝利を目指す姿が、サッカー大好きな私にとっては一番の魅力です。皆さんが楽しんで観戦し、笑顔で競技を応援してくれるよう、競技の面白さや感動をどのように伝えるかを海外の試合を分析するなど常に研究し、ゲームコントロールを心掛けてレフェリーをしています。その研究結果が、この度の東京パラリンピックの自分のジャッジのパフォーマンスで表現できたと思います。

監督

チーム全体を指導。中盤の選手に指示を出す



サイドラインには約1mの高さのフェンスがある

ガイド(案内役)プレイヤーにゴールの位置と距離や角度を伝える

ロービジョンフットサル(弱視クラスB2/3)



©JBFA/H.Wanibe

ロービジョンフットサルは、弱視者が弱視状態のまま、フットサルとほぼ変わらないルールでプレーします。4名のフィールドプレーヤー (FP)、ゴールキーパー (GK) の5人で行い、フィールドプレーヤー4人のうち最低2名はより見えにくいB2クラスの選手がいなければなりません。B3クラスの選手は腕章を装着します。アイマスクは装着せず、ボールも音が出ない通常のフットサルボールを用います。一般的に「目が悪い」というと視力が弱い状態を想像しますが、見えにくさがそれぞれ異なり、ぼやけ、欠け、にごりなどの症状があり、さらにそれらが掛け合わされて多様な見えにくさがある状態でプレーをします。

ルール

【人数】5名

【試合時間】20分ハーフ(プレイングタイム)

【ピッチサイズ】40m×20m

対象者

FPは弱視者
(国内大会では大会により晴眼者も可)

GKは弱視者または晴眼者

【クラス分け】

B2: 矯正後の診断で、視力0.03まで、ないし、視野5度まで

B3: 矯正後の診断で、視力0.1まで、ないし、視野20度まで

※ B2のプレーヤーが2人以上

※ ピッチ上 B3のプレーヤーは右腕に赤いバンド装着

国内大会

日本選手権



通常の見え方



ぼやけた見え方



視野が欠けた見え方



黄色くにごった見え方



ロービジョンフットサル(弱視クラスB2/3)の審判

選手らは、異なる見えにくさの状況でプレーするため、必要に応じて会話によるコミュニケーションが必要となります。

留意点

サッカーの審判と同様に、適切なポジショニングや的確な判定を心がけゲームをコントロールすることが大事となります。また、選手によって異なる見えにくさがあるので、場合により会話による説明を多くするなど工夫が必要となります。

大会での審判条件

JBFA 審判資格者(割り当ては過去のロービジョンフットサル審判経験から判断)

独自審判講習会

- 頻度: 6回(2021年4月~2022年3月)
- 実施地域: 東京、神奈川、広島、静岡、千葉
- 実施方法: オンライン講習と実地講習の併用
- 1回の受講者数: 2~20人

大会時の事前審判研修の有無

- 大会前研修: あり
→ 内容: アクティブフリー講習会や審判資格講習会を年数回開催し、最近の事象を参考に、ブラクティカルトレーニング、ビデオ研修、競技規則テストを実施
- 当日研修: あり
→ 内容: 審判インストラクターを派遣し、試合前の打ち合わせ、試合後のフィードバック、試合後2日以内にアセスメントレポートの送付

大会等の審判状況

- ・ 日本ブラインドサッカー協会の審判ライセンス保有者で対応
- ・ 人数としては大きくは不足していないが、資格保有者が首都圏在住者に集中しているため、首都圏以外在住者の審判員増加を目指しています。

松田 統さんに聞きました!

ロービジョンフットサルの審判に取り組むようになったきっかけは?

視覚障がい者サッカー競技の審判資格は、2013年に友人から「パラに行こうよ。」と誘われて、深く考えずに取得しました。当時はロービジョンフットサル(以下、LVF)の存在を全く知りませんでした。資格取得後初めて審判を務めたのはLVFの大会で、それは、ほぼフットサルと同じで若干の差違は有りましたがすんなりと溶け込み、今では数少ない大会で審判活動を楽しんでいます。

審判を通して感じるロービジョンフットサルの魅力について一言!

視覚障がい者はその程度によってクラス分けされています。その程度は様々で、見え方もそれぞれ違います。そんな彼等を締めコントロールすることは至難の業ですが、彼等の踏ん張り、競技への想い、それを支える家族、スタッフの皆さまを顧っていると、LVFに携わる皆さまが、障がいの有無に関わらず、生きがいを持って生きることに少しでも協力し、大会関係者を含めてすべての皆さまが楽しめるように、競技規則の精神を遵守し、ゲームコントロールに努めようと思います。サッカー環境は人それぞれ違いますので、多くのパフォーマンスが生まれるように、環境整備も大事かと思うので、どうかご協力をお願いいたします。



特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27 ベアーズビル3F

Eメール info@b-soccer.jp

公式WEBサイト <https://www.b-soccer.jp>

公式Facebook <https://www.facebook.com/Blind.Football>

公式Twitter https://twitter.com/jbfa_b_soccer

公式Instagram https://www.instagram.com/b.soccer_official/

Youtube 公式チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCzfemHfCRGIOPYhditYFSA/featured>

07 ろう者(デフ)サッカー (聴覚障がい)

ろう者(デフ)サッカー、ろう者(デフ)フットサルがあります。

デフサッカー

「デフ」とは英語で「deaf (聞こえない人、聞こえにくい人)」という意味で、デフサッカーとは、聴覚障がいのサッカーであり、競技中は補聴器を外すことが義務付けられていることから「音のないサッカー」の愛称で呼ばれています。ピッチ上ではアイコンタクトや手話でコミュニケーションを取っています。

ルール

【人数】11人

【試合時間】45分

【ピッチサイズ】フルコート

【その他】主審は笛とフラッグ両方使用(笛の音が聞こえないため)

対象者

聴覚障がい者

※ただし、日本と国際ルールで基準が異なります。日本は最も軽い6級で両耳の聴力レベルが70dB以上、一側耳の聴力レベルが90dB以上、他側耳の聴力レベルが50dB以上と定められています。一方、国際ろう者スポーツ委員会は聞こえが良い方の耳の聴力が55dB以上とされています。

【クラス分け】なし

【その他】競技中は補聴器を外すことが義務付けられている

国内大会

全国ろうあ者体育大会(サッカー)・全日本ろう者サッカー選手権大会
全日本ろう者フットサル選手権大会

デフフットサル

デフフットサルとは、聴覚障がいのフットサルです。



ルール

【人数】5人

【試合時間】25分ランニングタイムもしくは20分プレーイングタイム

【ピッチサイズ】フルコート

【その他】主審は笛とフラッグ両方使用(笛の音が聞こえないため)



ろう者(デフ)サッカーの審判

基本的にサッカーとルールは変わりません。

1点だけ主審は笛とフラッグ両方使用します(笛の音が聞こえないため)。

国際試合ではさらに両ゴール裏に1人ずつ、合計5人のフラッグを持った審判員が、プレーの停止を多方向から伝えます。

留意点

サッカーと同じ大きさのフィールドをカバーできる体力が必要。また安全でスムーズな運営のため、審判員間の打ち合わせが重要です。また、旗のシグナルはタイミングよく示し、判定後プレーが続く場合はプレーヤーの視野に入ることも必要となります。

大会での審判条件

全国大会レベルではJFA審判資格3級以上

独自審判講習会

独自制度なし

大会時の事前審判研修の有無

■大会前研修：なし

■当日研修：あり

→内容：デフ対応用の説明をする(旗の使い方などの説明など)

大会等の審判状況

全国大会レベルでは都道府県サッカー協会に派遣協力依頼をしている。

山内 宏志さんに聞きました!

(サッカー国際副審)

ろう者(デフ)サッカーの審判に取り組むようになったきっかけは?

教員として専門学校の授業を担当していた時に、聴覚障がいを持つ学生と出会い、審判資格の取得や大会運営について相談を受けたのがきっかけです。それから毎年、東日本ろう者サッカー協会主催大会「デフリーグ」に参加するようになり、審判講習会も行うことができました。

審判を通して感じるろう者(デフ)サッカーの魅力について一言!

それは間違いなく「コミュニケーション」だと思います。手話や読唇はもちろんですが、アイコンタクトによるスムーズな連係は審判員としても魅了されます。また、危険を察知する力による「リスクマネジメント」なども特長として挙げられます。そして、ピッチ上だけでなくオフザピッチでも大切にされる「心遣い」とデフサッカーが育む「温かいコミュニティ」がその魅力をより強いものになっていると思います。

※2018年からは日本ろう者サッカー協会主催2020年、2021年はコロナ禍の影響で開催なし



一般社団法人日本ろう者サッカー協会

〒899-2154 宮崎県宮崎市学園木花台桜1丁目8番地3-A101

Eメール jdfa@jdfa.jp 公式WEBサイト <https://jdfa.jp>

公式Facebook <https://www.facebook.com/jdfa.soccer>

公式Twitter https://twitter.com/jdfa_official

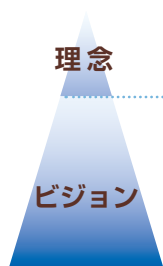
公式Instagram https://www.instagram.com/jdfa_official/

日本障がい者サッカー連盟

JFAと障がい者サッカー団体をつなぐ、中間支援組織です。

サッカーなら、どんな障害も越えられる。

日本障がい者サッカー連盟 (JIFF) は7つの障がい者サッカー団体の集合体です。日本サッカー協会 (JFA) の加盟団体であり、JFAと協働し、7つの障がい者サッカー団体の活動をサポートする中間支援組織です。



理念 広くサッカーを通じて、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツの価値を享受し、一人ひとりの個性が尊重される活力ある共生社会の創造に貢献する。

【普及】 障がい者サッカーの普及に努め、社会に根付いたものとなることで、誰でも、いつでも、どこでもスポーツを楽しめる環境を創りあげる。

【強化】 障がい者サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。

【組織】 健全な組織の構築に努め、社会的責任を果たしていくことで、障がい者サッカーの価値を向上する。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
 〒113-8311 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス内
 TEL 03-3818-2030 FAX 03-6684-4034 Eメール jiff_info@jfa.or.jp
 公式WEBサイト <https://www.jiff.football>

日本障がい者サッカー連盟 (JIFF) の活動内容

活動内容	
01 相談窓口	障がい者サッカーに関する相談専用窓口 TEL: 03-3818-2031 (平日 11時~16時)
02 障がい者サッカー共同事務局を設置/オフィス提供および人的支援	組織基盤が脆弱で専用のオフィスを持たない障がい者サッカー競技団体へ、オフィス提供および人的支援を実施しています。また、問い合わせの一次窓口や情報集約・整理等を行い、障がい者サッカー全体の組織基盤強化と普及をサポートしています。
03 7つの障がい者サッカーの情報発信	7つの障がい者サッカー情報をまとめ、障がい者サッカー全体の情報を発信しています。全国のクラブチーム検索機能を備えるほか、JFAと連携し障がいに関するハンドブックも制作しています。
04 インクルーシブフットボールフェスタによる全国的なインクルーシブな場づくり	障がい者と健常者がまぜこぜでサッカーを楽しむイベントを開催しています。都道府県サッカー協会、地元のJリーグ、Fリーグ、WE・なでしこリーグクラブ、障がい者サッカーチームの協力を得ての取り組みを全国へ展開しています。
05 障がい者サッカー指導者の養成/指導者登録制度の運用	JFA有資格指導者への障がい者サッカーカリキュラム受講を推進しています。JIFF指導者登録制度を運用し、障がい者サッカーへの橋渡しを行っています。また、バルサ財団(スペイン)と連携し講習会を実施し、場づくりのキーマンとなる指導者を養成しています。
06 9地域障がい者サッカー連携会議による障がい者サッカーネットワーク構築	2019年からスポーツ庁より事業を受託し、全国を9地域に分け、連携会議を実施しています。JIFF、JFA、7つの障がい者サッカーのほか、都道府県サッカー協会、全国のJリーグクラブ、地域の障がい者サッカーチームが参加し、ネットワークづくりに取り組んでいます。
07 企業・教育機関向けの教育事業の推進	障がい者サッカーで培われる強みを活かし、小・中学生向けに、障がい理解や、思いやりを学ぶインクルーシブ教育プログラムを実施しています。企業向けには、コミュニケーションやビルディング研修等を実施しています。

公益財団法人日本パラスポーツ協会

昭和39年の東京パラリンピックを契機に、わが国の身体障がい者スポーツの普及・振興を図る統括組織として設立されました。平成10年の長野冬季パラリンピックを契機に、三障がいすべてのスポーツ振興を統括する組織として、「日本障がい者スポーツ協会」に改称、内部に日本パラリンピック委員会を設置し、選手の育成・強化および障がい者スポーツ指導員の養成事業を行っています。

公益財団法人日本パラスポーツ協会

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸船町2-13-6 EDGE水天宮ビル3階(旧ユニゾ水天宮ビル)
 TEL 03-5939-7021 FAX 03-5641-1213
 総務部 Eメール soumu@parasports.or.jp
 企画広報部 Eメール jpsa-kikaku@parasports.or.jp
 スポーツ推進部 Eメール touroku127@parasports.or.jp

発行

公益財団法人 日本サッカー協会

編集

公益財団法人 日本サッカー協会 指導普及部
一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

編集協力・写真提供

特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会
一般社団法人 日本CPサッカー協会
特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会
特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟
一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会
特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会
一般社団法人 日本ろう者サッカー協会

- 本紙掲載のレポート、写真、図表等の無断転載を禁じます。
 - 発行日：2022年3月
- ※掲載しているデータは2022年現在のものです。

Football for All

サッカーを、もっとみんなのものへ。 JFAグラスルーツ宣言

年齢、性別、障がい、人種などに関わりなく、だれもが、いつでも、どこでも。
私たち日本サッカー協会は、サッカー、そしてスポーツの持つすばらしさをもっともっと、たくさんのおみなさんと分かち合い、育みたいと考えています。

だれもが、サッカーの楽しさに触れられるように！
サッカーとのすばらしい出合いやきっかけを、たくさんご用意します。

だれもが、サッカーをもっと身近に感じられるように！
自分のニーズや希望に合ったサッカーの選択肢を、次々と増やします。

だれもが、心からサッカーを楽しめるように！
安全に、安心してサッカーを楽しめる環境を、しっかりと整えます。

「JFAグラスルーツ宣言」2014年5月15日



電動車椅子サッカー



アンブレティサッカー



ブラインドサッカー



CPサッカー



ろう者(デフ)
サッカー



ソーシャル
フットボール



障がい者サッカー HAND BOOK

◀ 審判編

障がい者サッカーを
もつと
みんなのものへ
HAND BOOK



知的障がい者
サッカー

日本障がい者サッカー連盟

〒113-8311 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス内
TEL 03-3818-2030 <https://www.jiff.football>



公益財団法人 日本サッカー協会

〒113-8311 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス内
TEL 050-2018-1990 (代表) <https://www.jfa.jp/>